



## 「めがね」をかけるのはなぜ

「めがね」は、<sup>きんし えんし ひと</sup>近視や遠視の人がかける

「めがね」は、<sup>きんし えんし ひと</sup>近視や遠視の人がかけます。

<sup>きんし ひと</sup>近視の人は、<sup>ちか</sup>近くは見えますが、<sup>とお</sup>遠くがはっきり見えません。<sup>えんし ひと</sup>遠視の人は、<sup>とお</sup>遠くは見えますが、<sup>ちか</sup>近くがはっきり見えません。そこで、「めがね」をかけるのです。

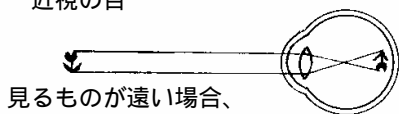
<sup>きんし えんし</sup>近視や遠視の、<sup>めがね</sup>めがねをかけるとよく見えるのは

<sup>め</sup>目には、<sup>すいしょうたい</sup>水晶体があり、そこを<sup>ひかり とお</sup>光が通って、<sup>もうまく そふ むす</sup>網膜に像を結ぶため、<sup>み</sup>ものを見ることができのです。<sup>すいしょうたい</sup>水晶体は、<sup>あつ か</sup>厚さを変えることによって、<sup>ひかり とお かた ちょうせつ とお</sup>光の通り方を調節し、<sup>ちか</sup>遠くのものでも、<sup>ちか</sup>近くのものでも、<sup>み</sup>見たものの像が、<sup>ぞう</sup>網膜にはっきりとうつるようにしています。

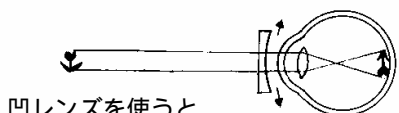
しかし、<sup>きんし えんし</sup>近視や遠視になると、<sup>がんきゅう かたち か</sup>眼球の形が変わるため、<sup>すいしょうたい あつ か</sup>水晶体の厚さを調節するだけでは、<sup>ひかり とお かた ちょうせつ</sup>光の通り方を調節することができず、<sup>ひかり とお かた ちょうせつ</sup>めがねをかけて、<sup>ひかり とお かた ちょうせつ</sup>光の通り方を調節するのです。

<sup>きんし ひと</sup>近視の人は、<sup>がんきゅう</sup>眼球のおくゆきが<sup>なが</sup>長いため、<sup>ひかり ぞう もうまく まえ むす</sup>光の像が網膜の前で結びます。また、<sup>えんし</sup>遠視の人は、<sup>がんきゅう</sup>眼球のおくゆきが<sup>みじか</sup>短いため、<sup>ひかり ぞう もうまく うし むす</sup>光の像が網膜の後ろで結びます。めがねをかけると、<sup>み</sup>めがねのレンズで、<sup>み</sup>見たものの像を、<sup>ぞう</sup>はっきり網膜にうつし出すことができるため、<sup>み</sup>見たものの<sup>かたち</sup>形がはっきりわかるのです。（監修・保志 宏）

近視の目

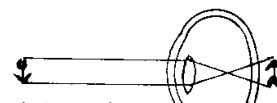


見るものが遠い場合、  
網膜の前方で像を結ぶ

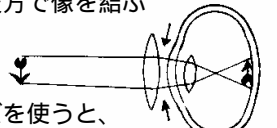


凹レンズを使うと、  
網膜の上に像を結ぶ

遠視の目



見るものが近い場合、  
網膜の後方で像を結ぶ



凸レンズを使うと、  
網膜の上に像を結ぶ

